

【宇部版】中小企業景況動向調査 実施報告書

(令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

1. はじめに

宇部商工会議所情報サービス部会では、市内の景況感を速報値として把握できるツールを作り、企業の経営指針に活用していただくことを目的に、平成 27 年度の新規事業として本調査を開始いたしました。平成 27 年 7 月～9 月期にスタートした調査は四半期に 1 度のスパンで実施しており、これまでに計 39 回の調査レポートを作成し公開しております。

今回は令和 6 年度に実施した計 4 回の調査結果を集約し、全国・県内の調査結果と比較したものを取りまとめましたのでご報告いたします。

なお、調査実施にあたり、信頼できる速報値を導き出すため、多くの事業所様へご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

当部会といたしましては、調査結果を精査しながら内容をブラッシュアップし、調査を継続実施することで、より信頼性の高いデータとして皆様に活用いただけるものにしていきたいと考えておりますので引き続き、ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

宇部商工会議所 情報サービス部会
部会長 脇 和也

2. 調査概要

(1)実施期間等

回	対象期間	調査期間	調査対象	有効回答数	回答数
32	R6. 4～ 6	R6. 6.10～ 6.21	127 社	117 社	92.1%
33	R6. 7～ 9	R6. 9. 9～ 9.20	127 社	101 社	79.5%
34	R6.10～12	R6.12.17～12.20	127 社	104 社	81.9%
35	R7. 1～ 3	R7. 3.13～ 3.21	127 社	101 社	79.5%

(2)実施頻度

四半期に 1 回、年 4 回実施

(3)調査方法

FAX 送信による記述式

(4)調査対象

市内の景況感をよりの確にとらえるため調査対象件数並びに回答率を高めることを目的に、全国の商工会議所で実施されている『中小企業景況調査』へ回答をいただいている宇部商工会議所会員事業所 40 社と、部会幹事を中心に中小企業基本法の中小企業の定義に該当する企業 87 社(5 業種…小売業、卸売業、製造業、建設業、サービス業)を合わせた合計 127 社を調査対象としている。

(5)調査内容

- ①対象期の見通し(業況、売上高、資金繰り、経常利益、従業員数)
→各設問に対して該当項目(1. 好転 2. 不変 3. 悪化等)より 1 つ選択
- ②来期の見通し(業況、売上高、資金繰り、経常利益、従業員数)
→各設問に対して該当項目(1. 好転 2. 不変 3. 悪化等)より 1 つ選択
- ③新規設備投資(今期実施、来期計画)
→設備投資の有無、設備投資した場合はその内容を複数回答
- ④経営上の問題点
→業種別に重要度の高い問題を 14～17 項目より 3 つ選択

(6)調査結果の公開

- ・調査へ協力いただいた事業者へ調査レポートの送付
- ・宇部商工会議所会報で調査レポートを記事掲載
- ・宇部商工会議所ホームページで調査レポートを公開(過去分を含む)
- ・宇部日報へ調査レポートを記事掲載
- ・宇部商工会議所常議員会並びに議員総会において調査レポートの配布及び報告

(7)成果

- ・中小企業へ市内の景況感を迅速に提供し、経営指標として活用いただいた。
- ・商工会議所が市内の景況感を総合的に知り得ることで、タイムリーな事業立案、重点事業の決定等に活用した。

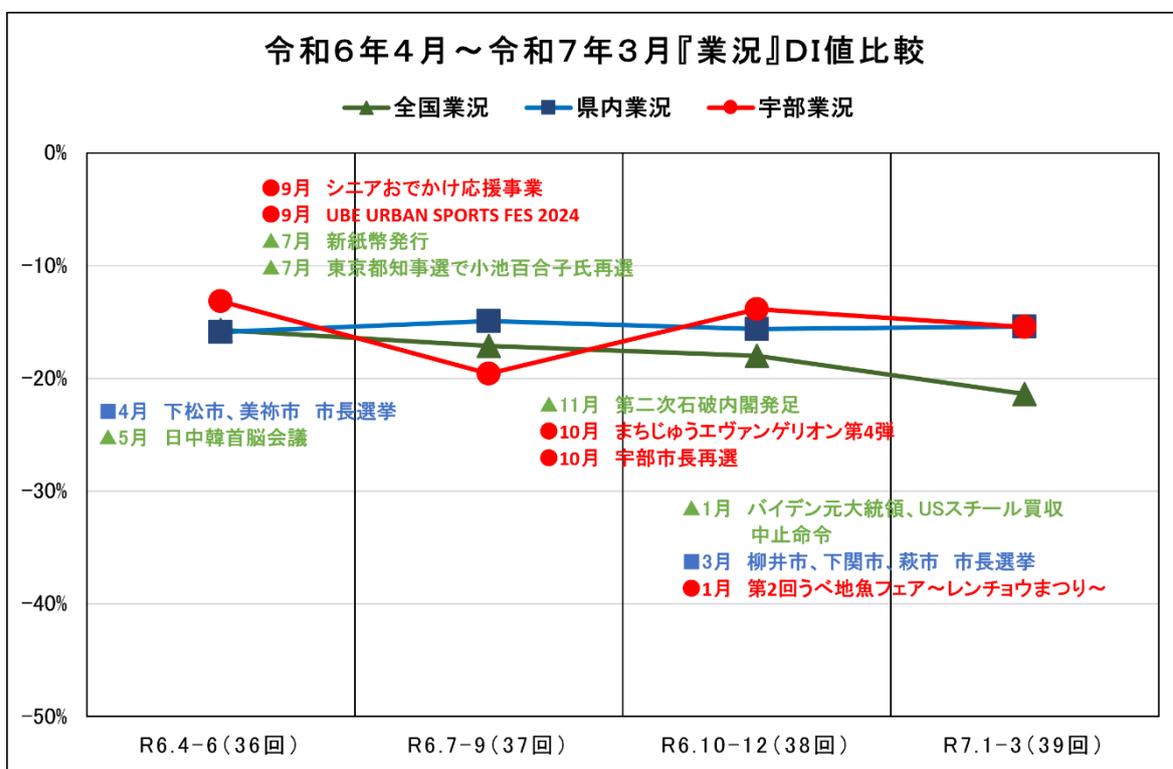
※DI 値の算出方法

上記①～②の質問において「プラス」、「中立」、「マイナス」の3つの選択肢に対して「プラス」と回答した企業の割合から「マイナス」と回答した企業の割合を差し引いて算出し、「変化の方向」を表す値となっている。

$$\frac{\text{プラスと回答した企業数}}{\text{全回答企業数}} - \frac{\text{マイナスと回答した企業数}}{\text{全回答企業数}} = \text{DI 値}$$

3. 全産業における業況 DI 値の推移(全国、県内、宇部の比較)

“回復傾向が見られた宇部地域における業況”



全国業況DI値は緩やかに悪化している一方、県内業況DI値はほぼ横ばいで推移している。宇部市の業況DI値は変動が大きく、他と比べて不安定な動きを見せる結果となった。

4. 宇部地域における各産業別の業況等DI値の推移

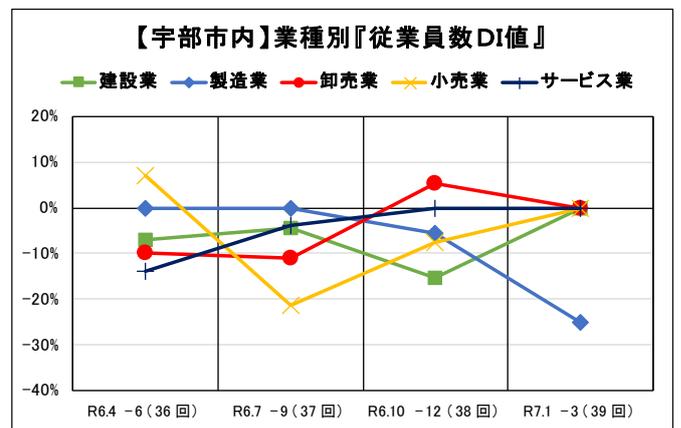
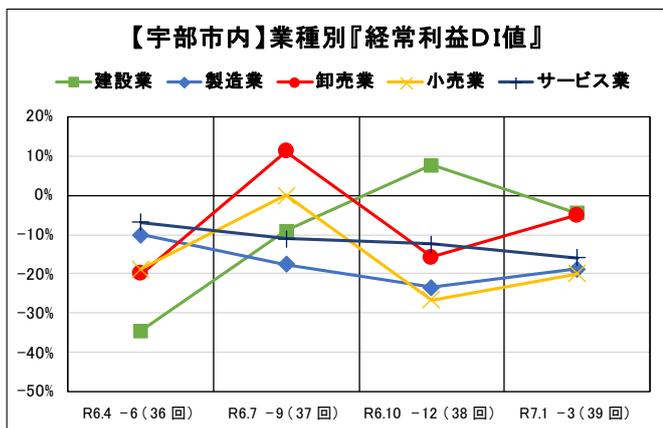
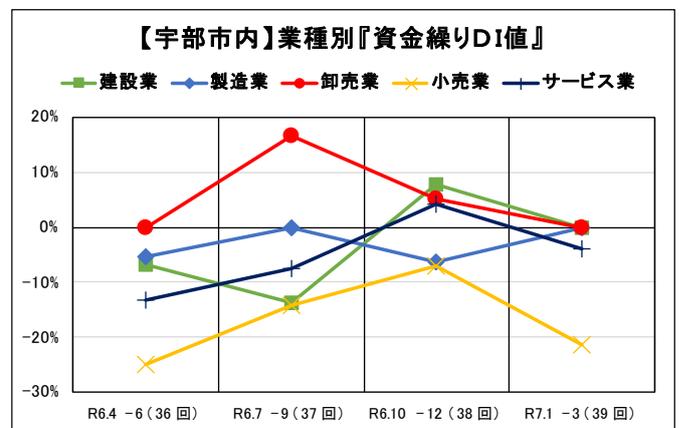
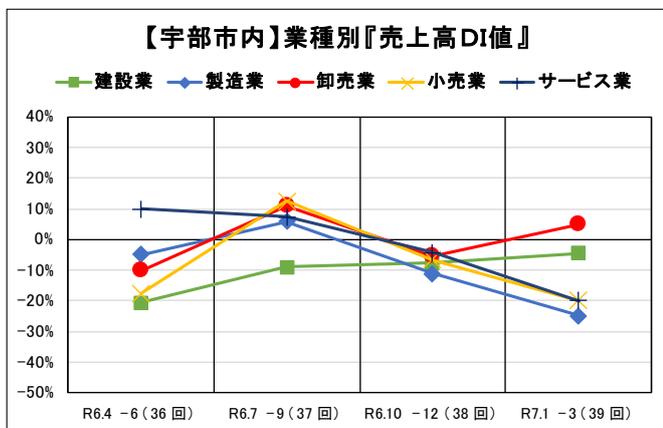
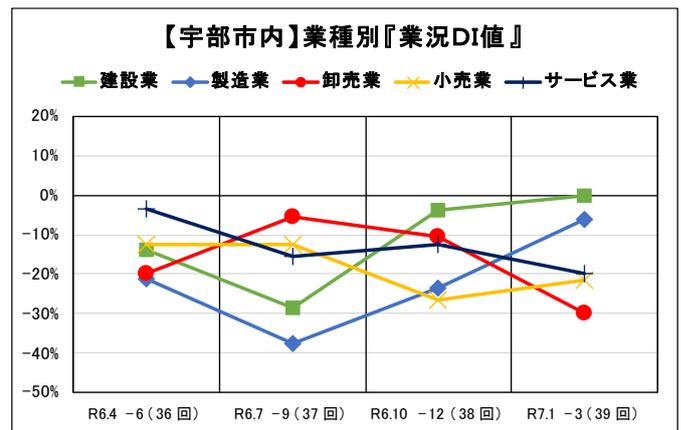
対象期間

第36回 (R6. 4月～6月)

第37回 (R6. 7月～9月)

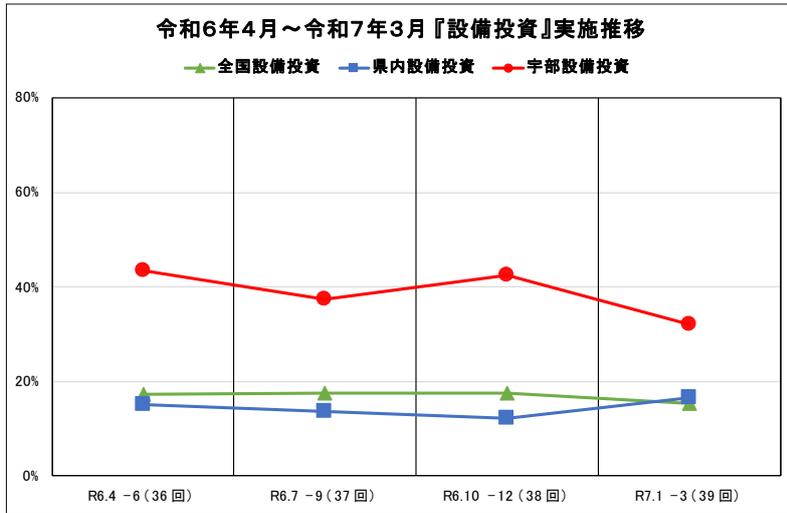
第38回 (R6.10月～12月)

第39回 (R7. 1月～3月)



5. 全産業における設備投資の実施推移(全国、県内、宇部の比較)

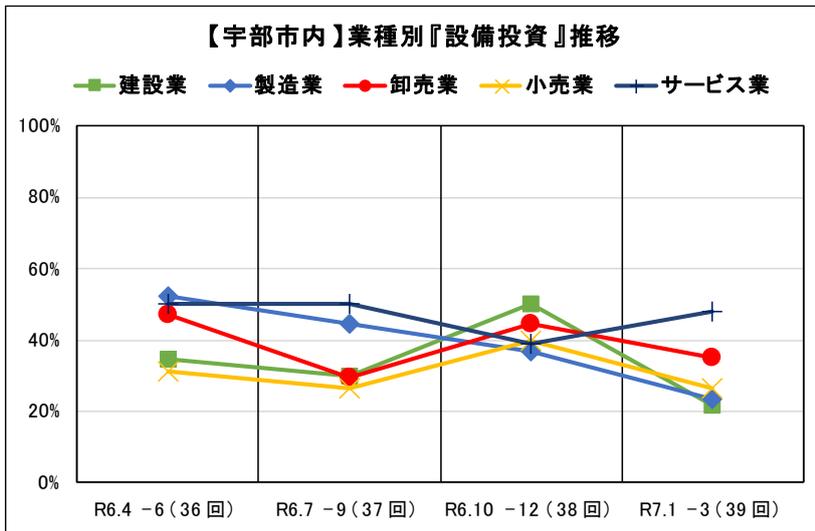
“高い水準を維持した宇部地域における設備投資”



全国・県内は何れも 15%前後で推移した。

一方、宇部地域においては、全期を通して 30%以上となっており、1年を通じて全国・県内平均と比べ 15%以上の高い水準を維持した。

【参考】

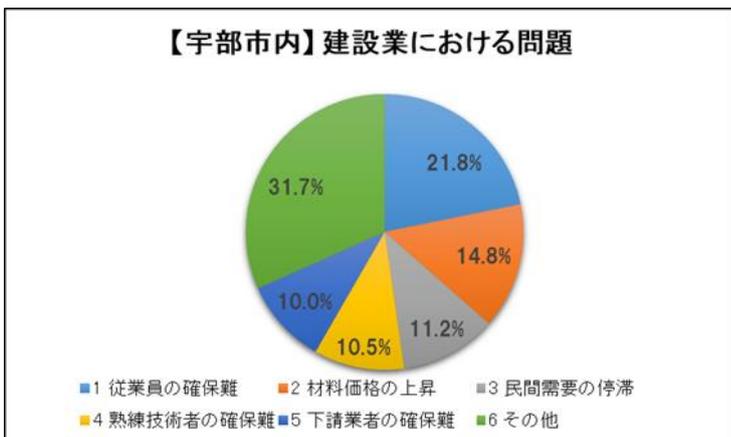


宇部地域における業種別の設備投資の実施比率を見たところ、サービス業ではほぼ横ばいとなっている。建設業、製造業、卸売業、小売業では振れ幅が大きくなっている。

何れの業種も 1年を通じて約 20%以上の企業が何らかの設備投資を行っており、全国・県内と比較して高い水準となっている。

6. 宇部地域における業種別経営上の「問題」

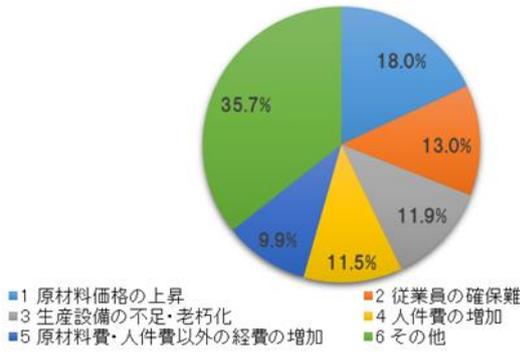
下記は期毎の調査において、各業種別に重要度の高い問題を 14～17 項目より 3つ選択する形で回答された結果を全 4 回の調査結果で合算し、その回答比率を示した結果である。



“人材難の深刻化が続く建設業”

建設業では前年度に続き全 4 回の調査を通じて全て「従業員の確保難」が 1 位となった。また、「材料価格の上昇」「民間需要の停滞」「熟練技術者の確保難」が前年度から引き続き上位となり、問題解消が難航していることが推察される結果となった。

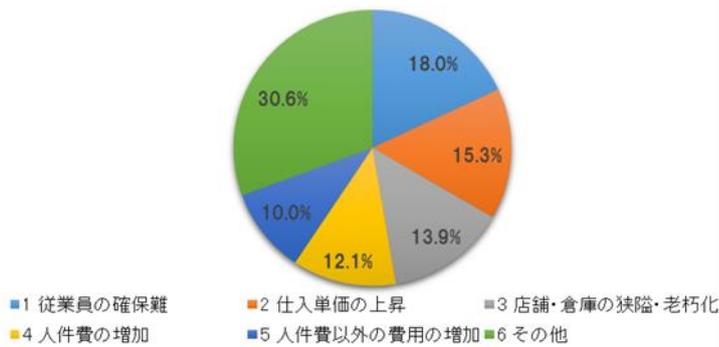
【宇部市内】製造業における問題



“原材料価格高騰の影響が続く製造業”

製造業では、昨年より1.3%減少したが4年連続で「原材料価格の上昇」が1位となった。また、今年度より「人件費の増加」が新たに上位に入っており、「原材料費・人件費以外の経費の増加」と併せて費用面による問題を多く抱えていることが推察される結果となった。

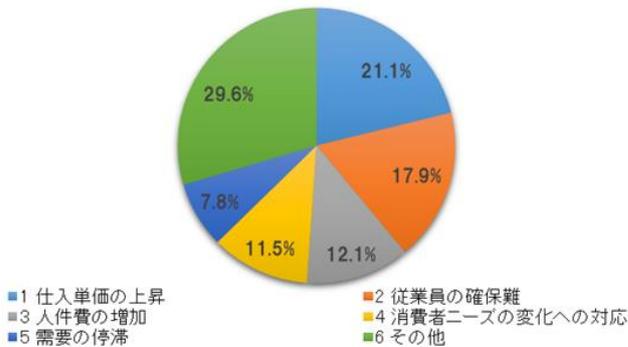
【宇部市内】卸売業における問題



“慢性的課題が継続している卸売業”

卸売業では、長年「従業員の確保難」、「仕入単価の上昇」、「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」が上位を占めている。また、順位の入替わりはあるものの1位から5位まですべて昨年同様となり、問題が慢性化していることが推察される結果となった。

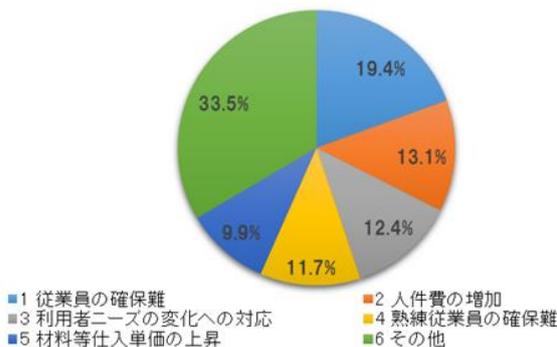
【宇部市内】小売業における問題



“仕入単価上昇の問題を抱える小売業”

小売業では、「仕入単価の上昇」、「従業員の確保難」、「消費者にニーズの変化への対応」が順位は毎年異なるが、上位を占めた。3年連続で1位となった「仕入単価の上昇」は昨年より2%増加し悪化傾向にあり、問題がより深刻化していることが推測される結果となった。

【宇部市内】サービス業における問題



“人材確保の問題を抱えるサービス業”

サービス業では、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「利用者ニーズの変化への対応」が上位を占めた。なかでも「従業員の確保難」は、3年連続で1位となり、他の業種と同様に人材不足が深刻化している。

また、「人件費の増加」が上昇しており、新たな問題を抱えていることが推察される。